

まちづくりビジョン策定委員会（第20回）会議録

■ 日 時：平成26年10月24日（金）午後2時30分～午後5時20分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（8／13名）

河合 生博、小野 章一、津久井 功、木村 孝弘、持谷 美奈子、高橋 直也、
本多 圭仁、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（まちづくり交流課）（3／3名）

課長 宮崎 育雄、エコパーク推進室GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

④森林整備業者（2名）

利根沼田森林組合 専務理事 鈴木 敏雄
フォレストノーツ 代表 石坂 哲也

■ 配布資料

資料1 まちづくりビジョン第1次中間報告書（案）

■ 会議内容

1 開会

2 議事

（1）森林整備、里山整備について

○ 森林や里山の整備について、森林組合と森林整備業者を交えて議論を行う。

- ・ ある程度の面積が集約された森林や里山は、国の補助金や森林環境税などを活用して整備することができるが、全体的にみると里山が荒廃しつつあるし、鳥獣害も増加している。整備のスピードを速めるには財源が必要であって、里山に観光資源としての価値を見いだすなどして連結決算の考え方で財源を捻出しなければならない。また、里山が整備されれば、鳥獣害や自然災害の防止などの効果も期待できる。
- ・ 一方で、全ての森林や里山を一度に整備することはできないので、行政が中心となって整備の優先順位をつける必要がある。また、多くの森林所有者が自分の森林を管理できない状況であって、地域の森林をどのように整備・保全していくのか、森林を一括管理できる仕組みを構築したり、広域的・長期的な視点に立ったマスタープランを

策定したりしなければならぬ。そのためにも、役場内に専門的な人材（＝フォレスターなど）を育成したり、外部人材を活用したりする必要がある。

- ・ 里山整備の優先度の検討には、例えば観光施設・資源の周辺であることなどを考慮してはどうか。また、行政が主導することで、計画的な山づくり（観光資源として紅葉がきれいな山とするなど）ができるのではないか。

（２）各分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」について

- 資料１により、農林業、健康・福祉、人づくり分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」について確認を行う。
 - ・ 農林業分野について、農産物のブランドを構築し、安心安全を訴求するためのアクションプランとして、JGAPや特別栽培の認証取得を追加する。また、果樹については、収穫期を徹底して生産物の質を担保し、一定の基準を満たすものは、町の制度を活用してブランド品として認証していく。
 - ・ また、本町を代表する名物がないので、地元農産物を活用した新しい特産品を開発する。例えば、アップルパイなどは名物となり得るし、冷凍とできれば全国展開も可能である。また、商品の企画・開発やマーケティングなどに、地元の主婦の感覚をより活用すべきである。
 - ・ 健康・福祉分野について、結果として健康寿命の延伸や介護待機者の減少が見込めるかもしれないが、付加的な成果であるので、目標は医療・福祉就業者数のみとする。ただし、町内の高齢者を優遇措置するなどの配慮を戦略やアクションプランに追加すべきではないか。町内に施設が充実すれば、住み慣れた地域で暮らし続けることができるようになるわけであるから、福祉の増進につながる。
 - ・ 人づくり分野について、語学能力を強化しようとする観光関連業者（ホテル・旅館等）に対して授業料を補填するなどの支援を行うことを追加する。また、町立小中学校と利根商業高等学校はユネスコスクールに加盟し、理念に基づいた教育を行うことを提案することとする。
 - ・ 人づくりとして、役場や公社などの組織、人事のあり方についても言及したい。優秀な人材がいるにもかかわらず、ほとんど育成がされていないし、昔ながらの組織のあり方から脱却できていない。

３ 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：11月7日（金） 午後2時30分から

場所：観光センター 2階 第1会議室

４ 閉会